

思考・判断の「レベル」に応じた言語活動の選択と組合せ

～グループでの話し合いを充実させるために～

グループ（少人数）での話し合いの手法には、バズ・セッション、ブレインストーミング、KJ法などがあります。今回は、複数の手法を組み合わせ、グループでの話し合いを充実したものにする実践例を紹介します。



〈中学公民「選挙のしくみと課題」における実践〉

選挙権年齢を18歳以上に引き下げる公職選挙法改正案が、2015年の通常国会に提出され、早ければ2016年夏の参議院議員通常選挙から適用される見通しです。

国政選挙の年代別投票率は、平成24年の衆議院議員総選挙では、20歳代が37.89%、平成25年の参議院議員通常選挙では、20歳代が33.37%と、他の年代と比べて低い水準にとどまっています。

そこで、次の課題を設定してグループでの話し合いを行うことにします。

20歳代の若者の投票率を上げるためのアイデアを考えよう。

話し合う課題はできるだけ具体的なものにします。ここでは、対象を「20歳代の若者」に限定することで、課題に対する解決の切り口を狭めています。

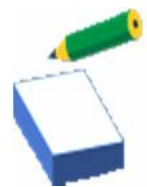
〈レベル1〉 拡散的思考

「ブレインストーミング」でアイデアを多く出し合う！

ブレインストーミングは、アイデアの質よりも量を重視し、できるだけ多くのアイデアを自由に出し合う話し合いの手法です。

ブレインストーミングには、次の四つの原則があります。

- 1 他人のアイデアを批判しない。
- 2 奇抜な考えやユニークで斬新なアイデアを歓迎する。
- 3 “質より量”を重視し、多くのアイデアを出す。
- 4 他人のアイデアに自分のアイデアを加えて改善したり、他人のアイデアから連想して新しいアイデアを生み出したりする。



話し合いを行うにあたり、まず初めに、課題に対するアイデアを各自が考えて付箋紙などに書きます。（付箋紙1枚に一つのアイデア）グループの全員がアイデアを書き終わったら、付箋紙を示しながらアイデアを発表し合います。

次のような奇抜で斬新なアイデアが出たらおもしろいですね！

- 若者が集まるコンビニやファストフード店などで投票できるようにする。
- 駅や大学などで、通勤・通学のついでに投票できるようにする。
- インターネットや郵送で投票できるようにする。
- 選挙に行く度に地域の商店等で使えるポイントが貯まるという制度を作る。
- 投票した人に減税措置をとる。等

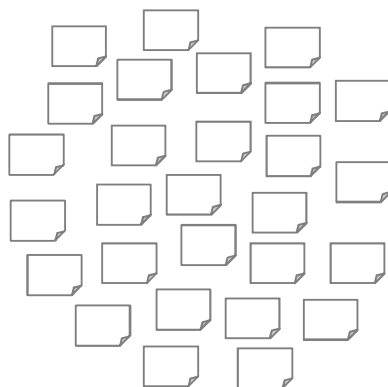
〈レベル 2〉 収束的思考

「KJ法」でグループのアイデアを分類し束ねる！

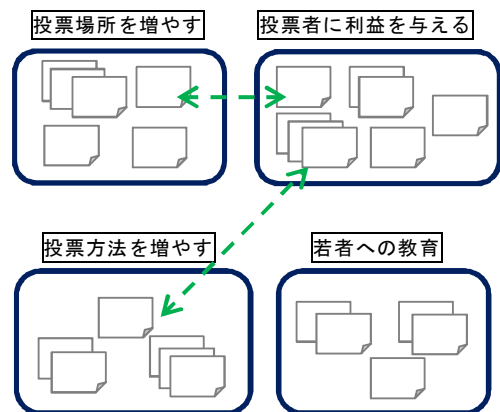
KJ法は、ブレインストーミングなどによって得られた発想を整序し、問題解決に結びつけていくための手法です。基本的な進め方は次のとおりです。

- 1 アイデアの似たもの同士を集めて分類し、仲間を作る。
- 2 仲間ごとにタイトルを付ける。
- 3 タイトルを見て、それぞれの関連性等について話し合う。

多くのカードを



分類し、仲間ごとにタイトルを付けて
関連性等について話し合う

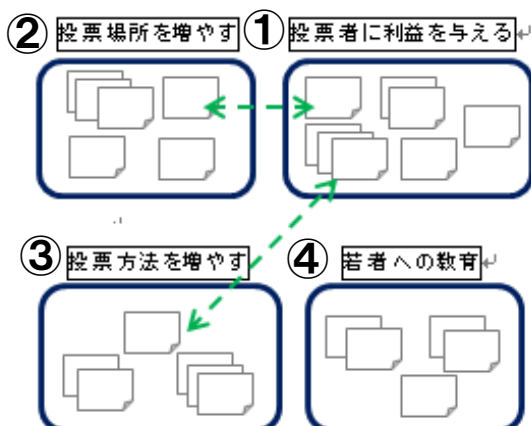


〈レベル 3〉 価値判断

「ランキング」でアイデアの重要度を判断する！

ランキングは、分類したアイデアを重要度の高い順に、順位付けする話し合いを通して、それぞれのアイデアの価値を判断する手法です。

ランキングを通して、優先して行うべき価値のあるアイデアを見いだすことができます。



ブレインストーミング、KJ法、ランキングの組合せによる話し合いは、課題に対する子ども一人一人の多面的・多角的なアイデアを多く引き出し、より効果的な解決方法を見いだすのに有効です。

このように、**思考・判断のレベルに応じて適切な言語活動を選択し、組み合わせることによって話し合いが充実したものになります！**

